

さいたま市防災カルテ

土呂中学校区



①学区の概況と課題

◆学区の概要

- 【位置】見沼区の北西部に位置しており、隣接している北区を跨いでいる。
- 【土地利用】学区内には住宅地が広がっており、南部と中央部に畑がある。東部に芝川が流れる。
- 【交通】学区の中央部にJR東北本線、南部に東武野田線が走っている。

◆学区の位置



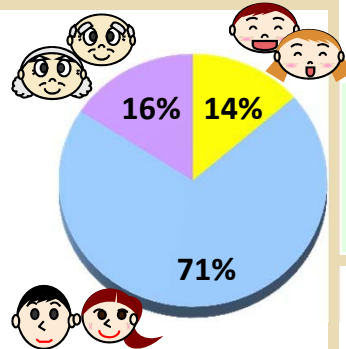
◆学区内被害想定結果

地震	さいたま市直下地震	関東平野北西縁断層帯地震	東京湾北部地震			
最大震度	6強 (6.0)	6強 (6.0)	5強 (5.3)			
最小震度	6弱 (5.7)	6弱 (5.8)	5強 (5.1)			
死者	6人 (0.0%)	7人 (0.0%)	0人 (0.0%)			
負傷者	75人 (0.2%)	88人 (0.3%)	3人 (0.0%)			
避難者	699人 (2.1%)	856人 (2.6%)	17人 (0.1%)			
全壊建物棟数	148棟 (2.5%)	187棟 (3.1%)	1棟 (0.0%)			
うち焼失棟数	42棟 (0.7%)	51棟 (0.9%)	0棟 (0.0%)			
半壊建物棟数	598棟 (10.0%)	671棟 (11.2%)	40棟 (0.7%)			
水害	荒川	利根川	江戸川	芝川等	綾瀬川等	鴨川等
床上浸水建物棟数	0棟	0棟	0棟	79棟	0棟	0棟
床下浸水建物棟数	0棟	0棟	0棟	130棟	0棟	0棟

※震度のカッコ内は計測震度を、それ以外のカッコ内は学区内の比率を示す。

◆人口概況 (平成22年国勢調査)

	土呂中学校区	全市平均
総人口	32,560人	
0-14歳	4,422人 (14%)	(14%)
15-64歳	22,996人 (71%)	(67%)
65歳以上	5,142人 (16%)	(19%)
人口密度	10,138人/km ²	5,766人/km ²

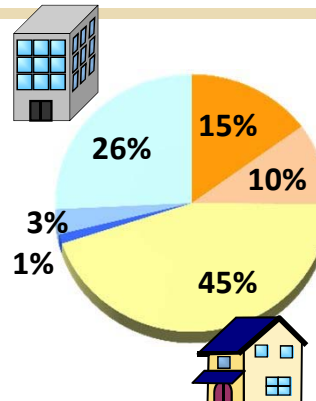


- 【地震】さいたま市直下地震、関東平野北西縁断層帯地震の震度が大きいですが、どちらも全壊・半壊の合計は15%程度と、他の地域と比べて相対的には危険度は低い。
- 【水害】他の地域と比べ、相対的には浸水被害の危険性は低い。

人口割合は全市平均とほぼ等しい一方、**人口密度はやや高い。**

◆建物概況 (平成23年度さいたま市都市計画基礎調査)

	土呂中学校区	全市平均
総建物棟数	5,987棟	
木造(昭和46年以前)	889棟 (15%)	(17%)
木造(昭和47-55年)	616棟 (10%)	(12%)
木造(昭和56年以後)	2,680棟 (45%)	(45%)
非木造(昭和46年以前)	71棟 (1%)	(1%)
非木造(昭和47-55年)	188棟 (3%)	(3%)
非木造(昭和56年以後)	1,543棟 (26%)	(21%)



建物の割合は全市平均とほぼ同等である。

◆防災関連施設情報 (平成26年2月時点)

種別	名称
避難場所	土呂中学校
一時・広域避難場所	東大宮中央公園、堀の内公園、本郷第2公園、神明北公園、見沼公園、大原公園、藁田島公園、見晴公園
市・区役所等窓口	
消防署・出張所	
警察署・交番	東大宮駅前交番
救急病院	医療法人社団協友会東大宮総合病院
応急給水場所	

◆被害想定結果からわかる防災上の主なポイント

- 【避難】人口密度が高い地域のため、**円滑な避難誘導の実施が必要。**
- 【応急給水場所】地区内に応急給水場所がないので、隣接している地域の**応急給水場所の事前確認が必要。**

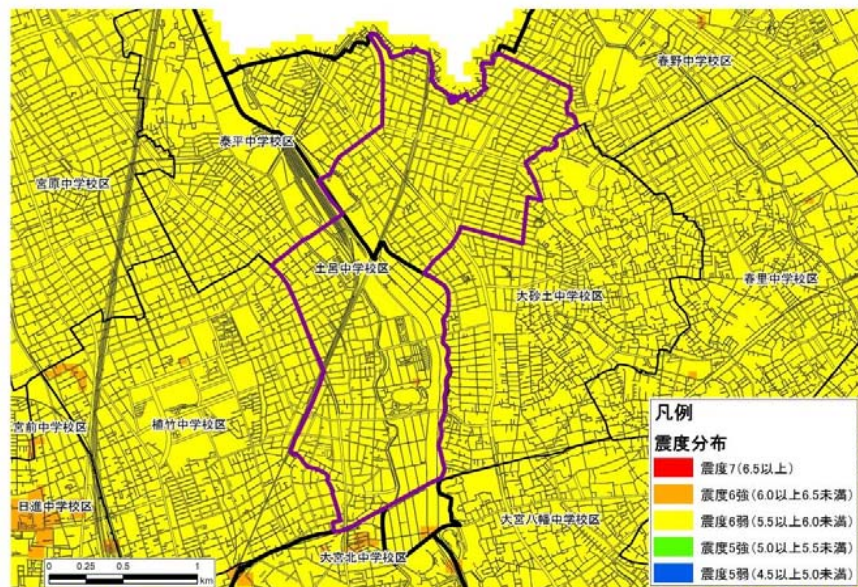
本カルテは一つの例であり、これを基に防災上のポイントや必要な対策について、家族や地域の方々と話し合ってみましょう。

②さいたま市直下地震の想定 **さいたま市防災カルテ**

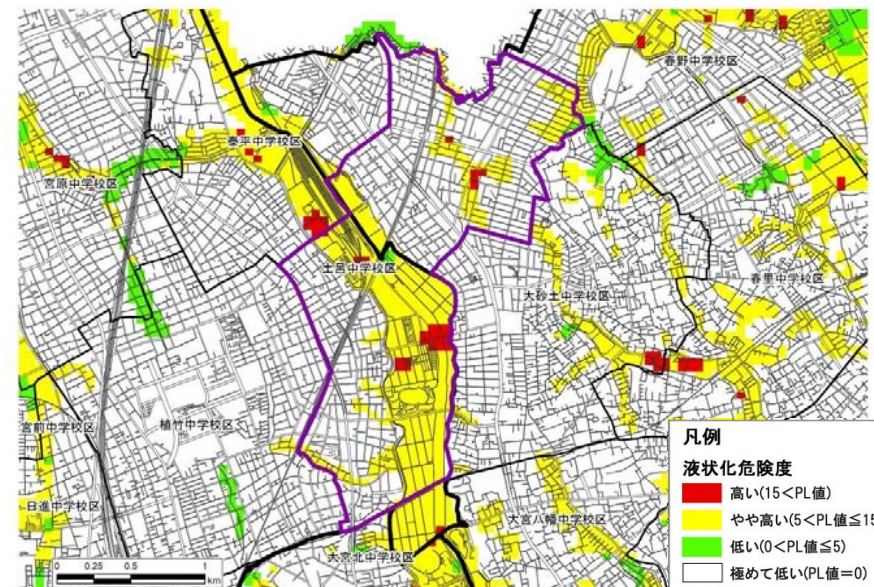
土呂中学校区



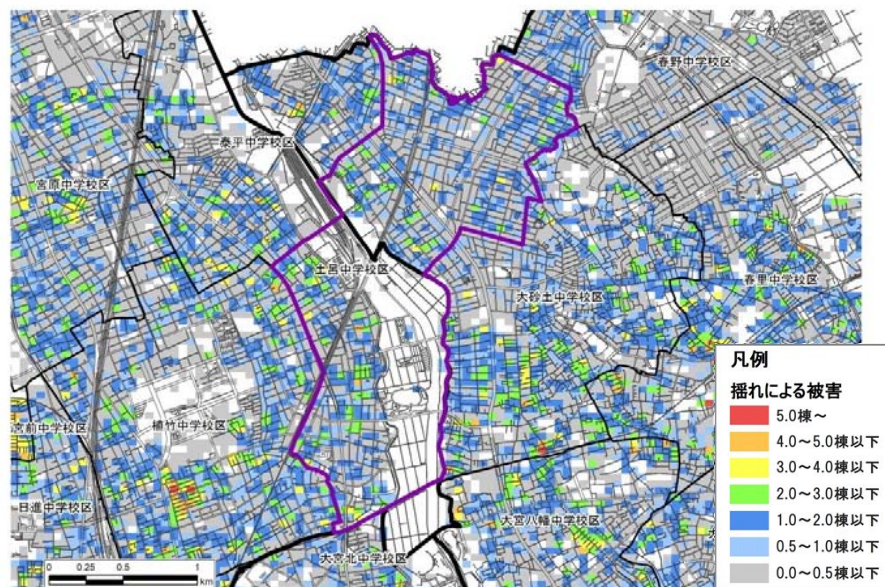
震度分布図



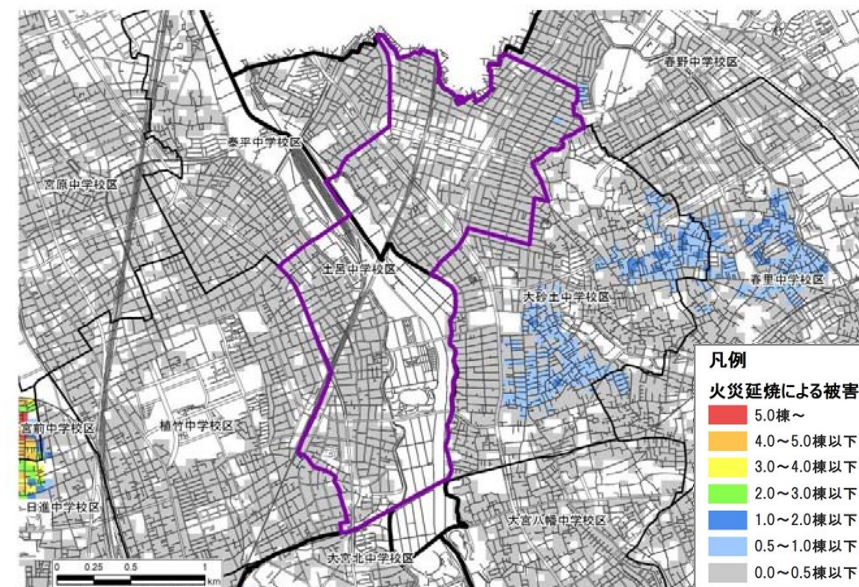
液状化危険度分布図



建物被害分布図（揺れによる被害）



建物被害分布図（火災延焼による被害）



本カルテは一つの例であり、これを基に防災上のポイントや必要な対策について、家族や地域の方々と話合ってみましょう。

③防災マップ

さいたま市防災カルテ

土呂中学校区



凡例

	避難場所		消防署
	一時避難場所		消防署(出張所)
	広域避難場所		警察署
	市役所		交番・駐在所
	区役所		救急病院
	支所・市民の窓口		応急給水場所

(平成26年2月時点の情報で作成)

